



熊本市保育園連盟 保育士会

こんにちは！保育士会です



脱マスクとはなりましたが、子どもの命を守るため、各園で状況に応じた対策をされていることと思います。コロナ禍の取り組み、保育、心より感謝します。頑張りました！私たちすごい！まず素直に認めましょう。

令和4年度もあと少し。卒園式を控え、とてもお忙しい毎日だと思います。この1年、充実した保育ができたでしょうか？1日の終わりに「保育のあの場面は・・・」「Aちゃんの気持ちに寄り添えたのか・・・」「お母さんに伝わったかな」等振り返りを続けることで、気づくことがたくさんあります。日々の省察が自分を育てます。

4月からは「こどもファースト」社会、こども家庭庁もスタートです。

保育者としてこども一人ひとりと向き合い、丁寧な保育をしていくことは何も変わりませんが、保育者への期待と注目度はあがります。対応していくためには自分の振り返りや研修を重ねていくことがとても大切です。専門職として、誇りと責任をもって自分の保育を楽しく語っていくことが、私たちの初めの一歩。

保育士会へのご理解ご協力、研修へのご参加、ご意見本当にありがとうございました。

役員会でも振り返りをし、新しい年度に向け計画を立てています。これからも一緒に学び合っていきましょう。

令和4年度 都道府県・指定都市保育士会正副会長セミナー及び第2回全国保育士会委員総会報告

【基調報告】1. 全国保育士会について～全国保育士会の成り立ちと枠組み～

2. 子どもの育ちと保育をめぐる状況と保育士会

〈保育を取り巻く制度等の状況〉

- (1) 児童福祉法等の一部を改正する法律（令和6年度4月施行）
- (2) 子ども基本法の施行とこども家庭庁の設立（令和5年4月）
- (3) 子どもの人権の尊重、安全・安心の確保

保育所保育指針、倫理綱領等に照らした専門性の再確認

昨今の保育（こども）を取り巻く課題

- ・子どもの安全・安心を守る取り組み
- ・子どもへの虐待・性暴力の防止
- ・子どもの貧困への対応



➤保育士・保育教諭の専門性とこれまでの経験を活かして、子どもの命と人権を守り、育ちを保障する役割を担っている

3. 令和5年度の全国保育士会の取り組み

〈保育士会事業の4つの柱〉

- (1) 子どもが豊かに育つ質の高い保育の実現
- (2) 専門性の発揮できる環境構築
- (3) 乳幼児教育への理解促進
- (4) スカンポ募金による保育士等支援

【行政説明】『こども家庭庁の設立とこども基本法の制定について』

内閣官房 こども家庭庁設立準備室 内閣参事官 山口 正行 氏

今後の子ども政策の基本理念

こどもの視点、子育て当事者の視点に立った政策立案

すべてのこどもの健やかな成長、well-beingの向上

誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援

様々な複合する課題に対し、制度や組織による縦割りの壁、年齢の壁を克服した切れ目支援



予防的な関わりを強化、プッシュ型支援、アウトリーチ型支援に転換
エビデンスに基づく政策立案、PDCA サイクル（評価・改善）

令和5年度 全国保育士会事業 ～子どもの現在(いま)と未来(あす)を支える保育の実現～

(重点事業の概要)

1. 社会の変化に対応した保育内容の実践

少子高齢化の急速な進展、核家族化や就業形態の変化など環境も大きく変化。このような状況においても「子どもの最善の利益」を保障し続けるため「保育所保育指針」に立ち返り、保育内容に必要な要素等を検討

2. 地域支援事業に向けた取り組み・・現場に必要なソーシャルワークの基礎的な知識・技術の検討・整理

3. 保育士会組織の強化と支援体制の強化・・・組織内引継ぎ支援、情報発信（保育の友など）

4. 保育の専門性の発信 社会に対する発信⇒ 乳幼児教育への理解促進、パンフレット等の活用
現場の魅力発信⇒ YouTube
やりがいの発信

第70回熊本小児保健研究会報告（こどもに関わる多職種の会、誰でも参加可能です）

【基調講演】こどもは未来のたからです～ESD（教育）とSDGs（目標）～ あけぼの愛育保育園 園長 北野久美氏

ESDが持続可能な社会の作り手を育む教育であり、そのゴールを目指した目標がSDGsであるならば、それはそのまま、今を生きる子どもたちの乳幼児教育そのもの！（コロナ禍の保育、保育の基本を社会に向け発信していただきました）
小さな？を見逃さず「子どもの姿に始まり子どもの姿に終わる」保育の展開が、大きな輪になり他職種連携のもとに「人を育てる、人が育つ、人が育ちあう社会」の醸成こそが本当の意味での「持続可能」な社会づくり

・法制度により転換期を迎えた医療的ケア児支援

5年、10年と医療的ケア児等コーディネーターが行政や医療、福祉、教育の場に加え、発達支援が充実していくことを目指し取り組んでいる

・ヤングケアラーとは～スクールソーシャルワーカーの実践活動から見える子ども達～

年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って、本来大人が担うような家族の介護ケア、身の回りの世話をこなしている18歳未満の子ども⇒1人1人ケアの状況は違う、周囲のこと変わらないよう気づかれぬようふるまっている
子どもが子どもらしくられない。支援を必要と声を上げられないことがあるかもしれない

・SDGameS 持続可能で楽しいゲームの遊び方について考える

現代の子どもたちは0歳児の11%、2歳児の62.6%、6歳児の82.3%何らかの形でインターネット利用ゲームは優れた娯楽ツールであり、有効なコミュニケーションツールであり、ダイバーシティなツールでもある
依存にならないためには約束事 子どもの意見とおとなの意見をすり合わせて⇒約束は必ず破られると心得る

・LGBTQ+の子どもたちに寄り添うために～多様な性の基礎知識～

人間の性の4つの要素 ①生物学的性（生まれたときの性） ②性的指向（好きになる性）
③性自認（心の性） ④性表現（自分の性の表現、話し方、しぐさ、服装など）
LGBTQ+ Q=自分の性的指向、性自認を決められない人 +=他者に性愛や情愛の感情を抱かない人、全ての性別を対象に恋愛や性愛を抱く人、性自認が男でも女でもない

※トランスジェンダー（性別越境者）が性別違和感を感じ始めた時期 小学校入学前 56.5%

物心ついたときから、誰にも相談できず悩んでいた

性同一性障害から性別違和/性別不合へ ●精神疾患や障害ではない

「性的マイノリティは精神疾患ではなく、治療の必要もありません」

いずれも、知識としてきちんと理解しておくこと、子どもをよく見ることで気づくことがある。声のかけ方、受け止め方本人の気持ちに寄り添い、困っていることは何かを見極める。保育の世界は可能性の塊です

